

〔「法学新報」第24巻1(271)号 大正3年1月1日〕

○渡辺講師逝く 中央大学学員渡辺豊治氏は旧臘十五日三時五十分脳溢血症にて長逝せられたり氏は明治二十二年中央大学を卒業、登用試験に合格して司法官に任せられ後独逸に留学すること三年帰朝の後官を辞して弁護士と為り傍ら母校に教鞭を執られつつありしか今や前途多望の身を以て永眠せらる惜むべきなり氏は十八歳を首に七人の子女あり殊に末子は氏永眠の数日前出産せられ産婦は未だ本復に至られずといふ葬儀は途中葬列を廃し十八日午後二時麹町区富士見町六丁目富士見町教会に於て執行、靈柩は中央大学其他より送られたる十数個の花環並に外遊会より送られたる生花を以て飾られ中央壇上に按置せらるるや悲哀なる奏楽に次て会葬者一同の賛美歌を了り瀬下清通氏聖書(詩篇九十)を朗読して祈禱を為し次に会衆一同故人愛吟の賛美歌(山にうつりきしゆふ日かげの云云)を唱へ尾崎利中氏故人の履歴を述へて席に著くや日本弁護士協会其他の弔辞朗読ありたるか伊藤理事は左の弔辞を

中央大学講師渡辺豊治君長逝セラル哀哉君ハ我大学出身ノ俊穎ニシテ夙ニ司法官ニ任シ後独逸ニ遊ヒテ法理ノ蘊奥ヲ究

メ「ドクトル、ユリス、ウトリウスクエ」ノ学位ヲ受ク帰朝幾何モナク官ヲ辞シ弁護士ト為リ又我大学ニ教鞭ヲ執テ熱心育英ノ事ニ従ハル惟フニ君ノ学殖ト抱負トハ是ヨリ益々世ニ顯レ後進ニ益スル所愈々大ナラントス何ソ凶ラン溘焉トシテ白玉楼中ノ人トナラントハ今ヤ幽明境ヲ異ニス君ノ英魂何所ニカ在ル江山時ニ積雪深ク朔風凜烈骨ニ徹シテ物情転々凄然タルヲ覚ユ嗚呼哀哉爰ニ本学諸同人ニ代リ恭ク君ノ靈ヲ祭ル尚饗

大正二年十二月十八日

中央大学学長法学博士 岡村 輝彦

代理 伊藤 悌治

花井卓蔵氏は左の弔辞を

本会ハ会員中央大学講師弁護士從六位ドクトル、ユーリス渡辺豊治君ノ長逝ヲ追悼シ恭ク弔詞ヲ呈ス

大正二年十二月十八日

中央大学学員会理事法学博士 花井 卓蔵

大場茂馬氏は左の弔辞を

中央大学学士会ハ会員ドクトル渡辺豊治君ノ遠逝ヲ痛惜シ茲ニ恭シク弔辞ヲ呈ス

大正二年十二月十八日

中央大学学士会会長法学博士 大場 茂馬

成島弘氏は左の弔辞を朗読し

大正二年十二月十五日渡辺豊治先生卒セラレ嗚呼悲哉先生ハ我中央大学ニ於テ多年独逸法講座ヲ担任セラレ生等最モ深ク

先生ニ親炙ス其業ヲ授ケラルルヤ常ニ熱誠以テ指導セラレ
矧トシテ毫モ倦怠ノ状ナシ生等為メニ発奮激励スルコト幾何
ナルヲ知ラス生等永ク先生ノ警咳ニ接シテ高風ノ感化ヲ望ム
コト切ナリ図ラサリキ忽焉易箴セラル哀悼何ソ堪ヘン茲ニ中
央大学独法科学生ヲ代表シ恭シク誄辞ヲ捧ケテ先生ノ靈ヲ祭
ル尚クハ饗ケヨ

大正二年十二月十八日

中央大学独法科学生総代 成島 弘

次に又会衆一同故人愛吟の賛美歌（あめなる我家をあふきみれ
は云云）を唱へ笹倉牧師の説教に入る言言人の腸に浸み満場為
めに涙を飲む祈禱の後頌歌祝禱等ありて親戚総代鷺山英一氏の
挨拶に依り一同靈柩を場外に送りて退散したり哀哉